

園芸学科通信

第18号

■沖島整備作業ボランティア
「菜の花プロジェクト」に参加
沖島離島振興推進協会
サポート隊・園芸科生



快晴に恵まれた作業の日。整備作業ボランティアには、39期生の12名を含む15名が参加しました。参加者は、沖島に渡る来場者専用駐車場に集合した後、堀切港を9時15分に発着する「おきこま通船」を利用して、沖島をめざし一直接に航行、10分余りで沖島に到着しました。沖島には初めて上陸するというメンバーも多く、さすがにいい気持ちで活動に参加できました。

先月の事、必修講座の講義を受けるために登校した私たちが39期生に対し、事務局から「沖島の雑木伐採と整備ボランティア募集について」と題した案内が配布されました。その内容は、近江八幡市沖島町離島振興推進協議会が活動を予定している「菜の花プロジェクト」に向けて「菜の花を栽培する土地」が、琵琶湖畔に繁茂する雑木や雑草などで埋め尽くされています。このままでは、畑一面に咲いている菜の花を、湖上を走る遊覧船や沖島観光に訪れた人から見ることができません。そのため「湖畔に生い茂った雑木や雑草の伐採整備作業をして欲しい」と卒業生を通じて依頼があったとのこと。この依頼を実現するにあたり、地域活動委員は沖島に渡り、現地の事前調査を行うとともに、沖島町の担当との打合せを行いました。その結果、作業実施日を「3月7日の水曜日」に行うことを決め、事務局から整備作業に参加するボランティアの募集が行われました。



近江八幡観光物産協会HPから



雑木や蔓が絡み合った作業前の現場

作業開始となり、各人が自分の役割を考えました。雑木の中に分け入り木を切る人、絡まったツルを取り除く人、琵琶湖にせり出した大きな木を巧みな技術で切断する人、そして切った木を抱え、何度も廃棄場所まで往復する人、作業の分担を行いました。何事にも効率よく作業を進めることはさすがに「39期三九良会」でした。

沖島に上陸後、沖島離島振興推進協議会の本多さんから、今回の雑木伐採と整備作業ボランティアを依頼した経緯の説明を受けました。三輪自動車しか通ることのできない細い道を約20分ほど歩いて現場に到着しました。以前の場所は、地引網の漁場であったが、今では雑木や雑草がまみれ、そこに蔓が巻きついていたりして足を踏み入れることができないくらいでありました。



レイカディア大学・米原校



雑木の整備作業後、現場を離れる参加者

作業を始めた頃は、午前中に終われないのではないか、と心配していましたが、機械力の強みやみなさんの頑張りのおかげで、大きな木を伐採した頃からの作業は、スムーズに進み業にはかどりました。お昼前には朝の光景とは全く違う姿に変身、沖島の担当者からは喜びと共に感謝の言葉を、参加者もきれいな現場を見て、大きな達成感を味わうことができました。その後、沖島小学校で昼食を摂り、午後2時の定期船で沖島を離れました。

■ 大学の企画行事に向けて
課題学習「5テーマ」の取組みを発表

平成29年度後期必修講座「大学祭」が7月25日から3日間予定で開催されます。今、39期生及び40期生は、学科ごと、大学祭企画行事に向けて取り組んでいるところで、大学祭行事のなかで重要な取り組みのひとつに「課題学習の発表」があります。これは、レイカディア大学の設立目的である「地域の担い手として登場できるように支援すること」のための具体的なプログラムが「グループで調査・研究を行い、地域課題や仲間つくり・まちづくりの取り組み方法を身につける」ことを課題としています。



各課題学習テーマごとに中間発表

39期生が課題学習として取り組んでいる「5テーマ」を、1件15分程度で発表しました。取り組んでいるテーマは、①かくれ里教村庭園の整備(六井坊) ②校並木の整備と樹木剪定(せせぎ三九良会) ③ふるさと再発見(里山再生) ④先人の賢者に学ぶ『近江孤蓬園』の整備⑤快適な空間作り(高島二人会)です。今までの取り組みの内容を、パワーポイントを使って発表が終わると、意見交換の始まりです。アドバイズあり、お褒めの言葉あり、思わぬ意見も飛び出してお互いも納得。大学祭に向けてより良い発表ができるよう熱い討議を行いました。

校外学習「現地研修」を実施
藤居本家の酒蔵見学
若林コミュニケーションセンター
講師：南 敏孝氏

前期選択講座の一環として、校外学習を実施しました。これは、地域資源を活かした伝統技術の継承や農業改革への取り組みを学ぶ機会として行われました。3月27日、何時ものように車に分乗し

編集後記
平成30年3月31日発行の「第39期園芸学科通信第18号」をお届けします。近江八幡市沖島町離島振興推進協議会が活動するのは、「菜の花プロジェクト」の雑木伐採と整備作業ボランティア。沖島は淡水湖の中に住む島として国内で唯一、園芸学科生が研修できる場所です。作業は大変でしたが、みなさん満足感で帰ってきました。作業は、大家が近づくと、課題学習も思い込みに入りましたので、中間発表の様子を取り上げました。(佳)



■「彦根城の桜 施肥作業に参加」
彦根市文化財課「じ」桜会
園芸科 川崎 昭重氏

昨年引き続き今年も、レイカディア大学米原校園芸学科の講師、川崎昭重氏の呼び掛けで彦根城桜木の施肥作業の募集があり、39期生の北川と北村の両名、40期生の澤田氏を始め数名が参加しました。大手門橋から黒門付近の内堀沿いに施肥を行いました。病虫害に侵されている桜もあり、川崎講師は施肥だけでなく病害虫対策も必要であると指摘され、今後の桜守の必要性を感じました。